

# お お ぞ ら

No. 159

聖隷福祉事業団への法人移管後は42号

社会福祉法人 聖隷福祉事業団  
総合病院 聖隷三方原病院  
聖隷おおぞら療育センター

〒433-8558  
静岡県浜松市北区三方原町3453  
TEL 053-437-1467

発行責任者 荻野和功  
編集者 横地健治

2013年12月1日

## 重症心身障害児(者)の一般的活動

所長 横地 健治

個々の重症心身障害児(者)にとって最も良いと思われる生活を提供するのが私たちの仕事です。達成感・満足感を持てる生活経験をする

のがです。そこで、生きがいとなる活動、生活の身体的基礎を作る活動以外の時間に何をすべきかが問題となります。

保持は重要です。重症心身障害児(者)では安楽な姿勢は限られてきます。よって、その姿勢を保つようにすべきです。

施設入所者の場合、家族(大家族ですが)のようによい身近にいる人(職員、同じグループの入所者など)、時々訪れる来訪者、新規の来訪者などが身の周りに現れるべきです。時に警戒感を感じる人が現れるかもしれませんが、それはあるべき人生経験の範囲と考えます。

ことが最も重要であると、たびたび本通信でも取り上げています。こうした生きがいにつながりような活動は、健常者では「自分はこれをやりたい」と、他のことを後回しにしてでも取り組むことです。

健常者では「楽しく余暇を過ごす」、「のんびりくつろいで過ごす」といった内容がこの中心になります。重症心身障害児(者)では、散歩に出かけている、流されているテレビ・ビデオを見ている、流されている音楽を聞いている、周りをぼんやりと眺めている、こうした状態を指しています。

こうした変化があれば、あるものに注意を向け、興味を示す可能性はあります。職員が個別に関わっている場面ではないので、職員はこれにすぐには気づかないかもしれませんが、しかし、これが繰り返されれば、いずれ気づくはず

です。こうなれば、新しい興味関心が芽生えたことになり、取り入れられることにもなり、新たな人生経験につながっていきます。

健常者ではこれを自分で決定し、自分の力でこれに取り組んでいます。重症心身障害児(者)では、介助者がこれを見つければ、これを達成してもらおうと個別的に働きかけます。

よって、生活の中で占める時間は多いわけではありません。一方、食事・排泄・整容・更衣といった基本的日常生活

は受け身のな生活行為ですが、重症心身障害児(者)では、介助者はその選定と実施のために一定の労力は要します。

重症心身障害児(者)にとって良い一般的活動であるためには、以下の様な要件を満たすべきと考えます。まず、それは、心地よい時間を過ごすものでなければなりません。その人にとって落ち着く環境であるべきです。これは、温度、明るさ、風の程度などを指しています。さらに、姿勢

更衣といった基本的日常生活

重症心身障害児(者)にとつて良い一般的活動であるためには、以下の様な要件を満たすべきと考えます。まず、それは、心地よい時間を過ごすものでなければなりません。その人にとって落ち着く環境であるべきです。これは、温度、明るさ、風の程度などを指しています。さらに、姿勢

見聞きする世界はいつも同じではいけません。ふつうの暮らしでみられる変化は取り入れられるべきです。自然にみられる一日の変化、日々の変化、季節の変化はこれに当たります。それに、見聞きする人の違いは特に重要です。

施設入所している重症心身障害児(者)の一般的活動は、密度の薄い活動とは言えますが、長い時間を占めることであり、新しい発見や経験を促す機会でもあります。これは、重症心身障害児(者)の重要な活動のひとつと考えています。

身体的基礎を作るものです。重症心身障害児(者)では、この基礎のために、職員と本人の多大な労力と長い時間を費やすこととなります。それでも、この基礎の上に良い生活が営まなければならない、それ自体で価値を持つとは言い難いも

見聞きする世界はいつも同じではいけません。ふつうの暮らしでみられる変化は取り入れられるべきです。自然にみられる一日の変化、日々の変化、季節の変化はこれに当たります。それに、見聞きする人の違いは特に重要です。

施設入所している重症心身障害児(者)の一般的活動は、密度の薄い活動とは言えますが、長い時間を占めることであり、新しい発見や経験を促す機会でもあります。これは、重症心身障害児(者)の重要な活動のひとつと考えています。

施設入所している重症心身障害児(者)の一般的活動は、密度の薄い活動とは言えますが、長い時間を占めることであり、新しい発見や経験を促す機会でもあります。これは、重症心身障害児(者)の重要な活動のひとつと考えています。

